

Symposium:

東欧文学の 多言語的トポス

複数言語使用地域の
創作をめぐる求心力と遠心力——

2018.10.6 SAT
AM 10:00 – PM 6:20
東京大学本郷キャンパス
法文1号館 113教室

・主催：日本学術振興会科学研究費助成事業・基盤B
「東欧文学の多言語的トポスをめぐる研究」(H27-30年度、代表者：井上 暁子)
・共催：東京大学人文社会科学系研究科現代文芸論研究室
・問い合わせ先：stinoue@kumamoto-u.ac.jp

Program:

10:00 – 10:15 挨拶

10:20 – 11:50 ^{ユリ}規範の形成

- ・「ボヘミアにおける文学史の系譜」阿部 賢一(東京大学)
- ・「ボヘミアにおけるドイツ語文学史記述」三谷 研爾(大阪大学)

コメンテーター：榎岡 求美(東京大学)

13:00 – 15:00 辺境地域における文化活動

- ・「(周縁)と(カノン) —— ルーマニア領ブコヴィナのユダヤ系ドイツ語詩人たちとゲーテ」藤田 恭子(東北大学)
- ・「ワルシャワの亡命ロシア」小椋 彰(東洋大学)
- ・「分裂と統合のディレンマ：カシュブ文学の事例より」野町 素己(北大スラブ・ユーラシア研究センター)

コメンテーター：三田 順(北里大学)

15:10 – 17:10 流通するイメージ・概念・ことば

- ・「シレジアのイメージの変容 —— ポーランド語圏を中心に」井上 暁子(熊本大学)

- ・「ベラルーシと極東における中国イメージの比較」越野 剛(北大スラブ・ユーラシア研究センター)

- ・「1930年代ポーランドのユダヤ系前衛作家の共通言語 / 普遍言語の探求 —— デボラ・フォーゲルとブルーノ・シュルツ」加藤 有子(名古屋外国語大学)

コメンテーター：安達 大輔(北大スラブ・ユーラシア研究センター)

17:20 – 18:10 総合討論

18:10 – 18:20 結び